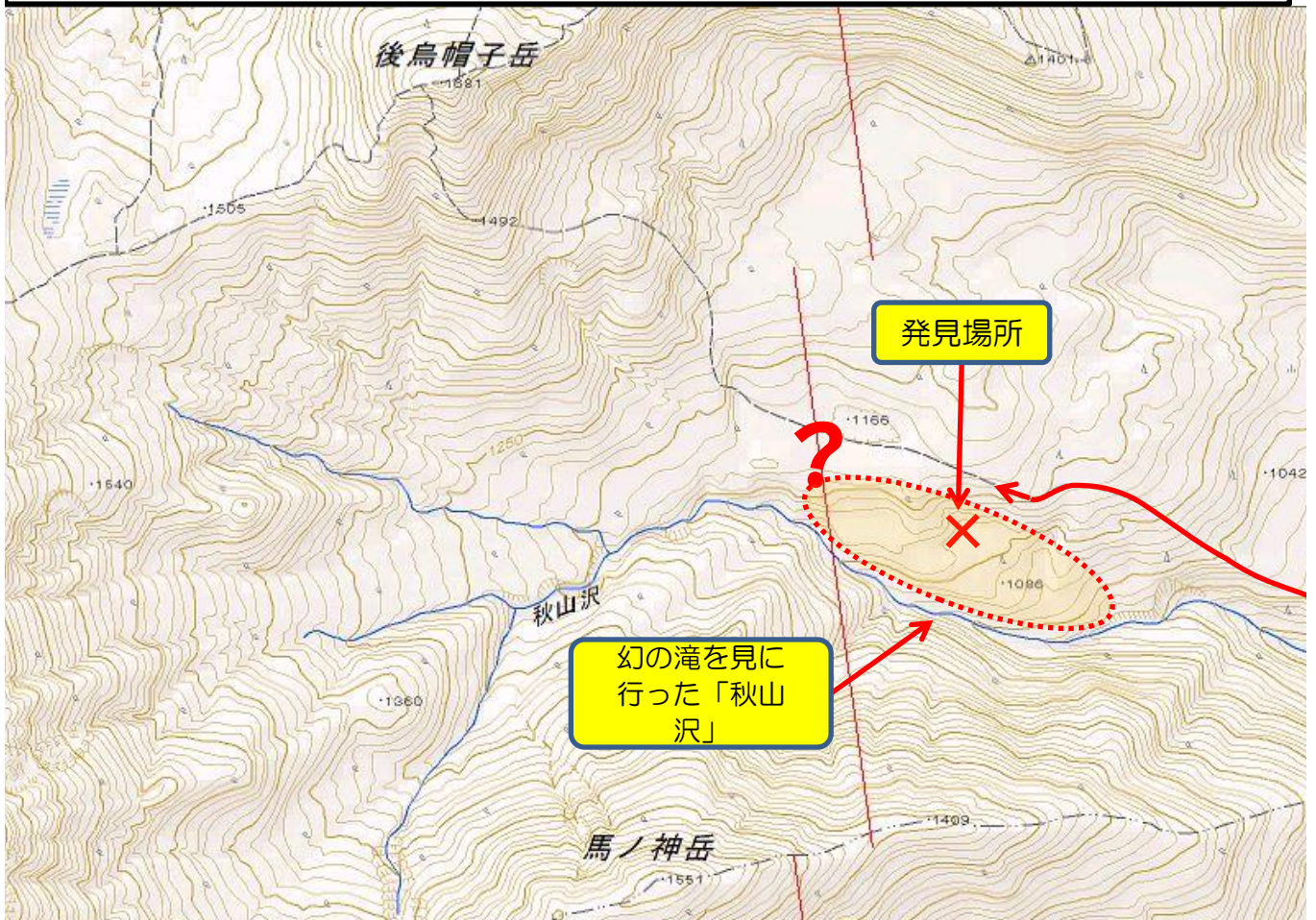


後烏帽子岳遭難(2013年10月)

58歳男性が単独で、秋山沢にある「幻の滝」を確認しに行った。滝までは道が無く藪こぎをしないと行けない。夕方、本人より「道に迷った」と警察に通報があり、その夜に捜索したが分らなかった。通報から4日目にヘリが倒れている人を発見し、死亡が確認された。登山道までは、僅か150mしか離れていなかった。



解説

58歳男性が単独で、秋山沢にある「幻の滝」を確認しに行った。日帰り予定であったため、10月の1000mの山にしては軽装だった。滝までは道が無く藪こぎをしないと行けない。沢に行くまでに、ピンク色のテープを付け道に迷わないように注意していたが、夕方、本人より「道に迷った」と警察に通報があった。翌日も本人の携帯から連絡が入ったがその後連絡が途絶えた。通報から4日目にヘリが倒れている人を発見し、死亡が確認された。登山道までは、僅か150mしか離れていなかった。

沢に行くためには、登山道から離れ、藪こぎをしないと行けない。ピンク色のテープを付けて沢に行った注意深いところがあっただけに残念な結果になってしまった。下る時にピンク色のテープを付けても、登る時に発見できなかったのだ。コンパスを持っていて、使用方法を知っていれば、沢からとにかく北に向かって進めば、道に出る。そんな大雑把な予測で解決できたのだが、道迷いはその予測すらさせてくれない。あと150mで登山道に出たのに・・・。

推測するに、遭難現場は、平らであったため安心感があった(地図には現われない、ちいさな池もあった)。北側が少し急な斜面になっていたため、この斜面を登っていいのかどうなのか判断に困ったのだろう。この事例では、①日帰り登山でも必要な装備を持つこと。②道でない藪こぎをする場合、地図とコンパスが使用できること。が重要だと思った。